

エイズ孤児支援 NGO・PLAS 年次報告書

PLAS・Post



 **PLAS**

Positive Living through
AIDS orphan Support

2018 年度の活動サマリ

年月	アフリカでの主要な活動	日本国内での主要な活動
2017年 10月	生計向上支援（カフェ）：第2期研修スタート	グローバルフェスタ出展
11月	生計向上支援（養鶏）：鶏の販売が完了	世界エイズデーキャンペーン実施（オークション）
12月	「HIV 陽性ユースのための職業訓練」調査開始	クラウドファンディング（CAMPFIRE）達成
2018年 1月	生計向上支援（在来野菜栽培）：事業スタート	エクセレントNPO大賞ノミネート
2月	生計向上支援（野菜と樹木の栽培）：農業局・森林局面談	
3月	（日本から各パートナーと連絡・モニタリング等）	
4月	ライフプランニング：絵本の読み聞かせ活動を開始	パラカップ共催参加
5月	生計向上支援（カフェ）：第2期店舗オープン アドヒアランス向上：保健局に活動計画を共有	世界エイズ孤児デーキャンペーン実施（パーティー・オークション）、AIDS文化フォーラム in 佐賀
6月	アドヒアランス向上：保健局・ヘルスセンター訪問 生計向上支援（カフェ）：第1期修了・セレモニー開催	LUSH 池袋駅前店とチャリティパーティー開催
7月	ライフプランニング：第2期カウンセリング完了	聖心女子大学でインターンチームが登壇
8月	ライフプランニング：エンドライン調査完了	クラウドファンディング（Readyfor）達成
9月	生計向上支援（野菜と樹木の栽培）研修完了	練馬区立開進第二中学校で特別授業実施 AIDS文化フォーラム in 京都

●2018 年度の活動成果

>生計向上支援を受けた家庭数

92 家庭 / 子ども **333** 人

>カウンセリング（ライフプランニング支援）に参加した子ども

30 人

>実施プロジェクト数

6 プロジェクト

2018 年度も多くの方から応援いただき、エイズ孤児およびシングルマザー家庭に支援を届けることができました。設立以来の実績累計は、支援を届けた子ども 1,906 名／シングルマザー家庭 235 家庭／実施プロジェクト 18 件となります。

生計向上支援事業では、収入が安定し子どもたちが学校に通えるようになっただけでなく、支援から自立したシングルマザー達に自信が芽生え力強い笑顔を見せる人達も出てきました。ライフプランニング事業でも、カウンセリングによって生活の知見を得た子どもたちとシングルマザーたちが、将来を前向きにとらえる変化が生まれています。

こうした人々の前向き-Positive-な変化は、皆さまの支えがあってこそ生まれてきたものです。

改めまして、温かいご支援に心から感謝申し上げます。

（代表理事 門田瑠衣子）

ウガンダ・生計向上支援事業（在来野菜栽培）

安定した食糧の確保は、生計の向上と HIV の継続治療を促進します。



●この事業の背景と目的

HIV 陽性者貧困家庭の安定した生計向上と栄養改善を目的として、2013 年からウガンダ共和国のジンジャ県で現地パートナー団体「カユンガ(HIV 陽性者の自助組織)」とこの活動を始めました。

2016 年に東アフリカを中心に起きた干ばつではウガンダの家庭も大きな影響を受け、食糧は不足し価格も高騰しました。HIV 治療薬 (ARV) の空腹時服用は副作用を出やすくし、これが原因で薬の服用を一時中断してしまう患者もいます。食糧の安定的な確保は、家計・生計の向上だけでなく HIV の治療の上でも大きな意味を持ちます。

「カユンガ」のメンバーと協議を重ね、農業技術と作物販売による収入向上の必要性を確認し、2018 年 1 月にこの事業を開始しました。



●2018 年度の活動と成果

2018 年度は県の農業行政官による農業技術研修を行うほか、農具提供や農地賃借を支援しました。栽培しているのは 4 種類の在来野菜をはじめ、サツマイモやヤムイモ、ショウガなどです。中には途中で枯れてしまった作物もありますが、4 月からは収穫が始まりました。

採れた作物の一部は地域で販売し、これまで各家庭 3~5 千円の売上をあげました。「在来野菜を初めて植えたが、栄養もあるし収入も得られるから嬉しい」とメンバーは評価しています。

今後も定期的なモニタリングを予定しています。

また事業終了後も自立して活動を継続できるようグループ貯蓄も始めました。月に 2 回集まり、1 年間をかけて翌年の活動資金を積み立てます。

なぜ「在来野菜」？

在来野菜はその土地の環境や気候に適応した作物で、病害虫や乾燥に強く、化学肥料・農薬を必要としません。現地では積極的に栽培されていませんでしたが、環境にやさしいだけでなく、経済的に苦しい家庭でも安価で栽培が可能で、かつ地域にマーケットもあるため推進することになりました。

※この事業は 2017 年 11~12 月に実施したクラウドファンディング「ウガンダでエイズ孤児を育てるシングルマザーを応援！農業で貧困から脱却する！」をはじめとする皆さまからのご寄付と、服部禮次郎アフリカ基金様からの助成を受けて実施しています。

ウガンダ・生計向上支援事業（食品調理・販売）

HIV 陽性のシングルマザーの手に職を。そして、自立した生計と「自信」を。



●この事業の背景と目的

ウガンダで暮らす 140 万人の HIV 陽性者のうち、6 割が女性です。その中には、夫をエイズで亡くしたりパートナーに HIV 感染を告げ拒絶された女性など、困難な状況にある人達がありますが、それでも子ども達を学校に通わせたいという気持ちを持った HIV 陽性のシングルマザーが多くいます。

一方、ウガンダは初等教育 7 年間・中等教育 6 年間の初等教育を無償で受けられますが、制服や教科書・補講など家庭が負担しなくてはならない費用があります。HIV 陽性シングルマザーの場合、治療を続けながら 1 人で家計を支えなくてはなりません、収入は不安定で教育費を払えないために子ども（エイズ孤児）が休学、留年、中退することが珍しくありません。

2016 年 4 月から開始したカフェ事業。支援終了後もカフェビジネスを自分たちで運営できると判断され、みごと自立を果たしたシングルマザーとパートナー団体のスタッフたち。お祝いのセレモニーでは今後の抱負を堂々と発言する彼女たちを頼もしく思いました。（写真）

●2018 年度の活動と成果

ルウェロ県の HIV 陽性シングルマザーを対象に、2016 年 4 月からこの食品調理・販売（カフェ）事業が始まりました。3 名ずつのグループを組んでカフェの立ち上げや運営に必要な研修を行い、そのビジネスを始めるために必要な機材や初期費用の一部を提供します。ビジネス開始後は定期的な巡回指導を通じて、彼女たちが直面する課題を一緒に考え、乗り越えてゆきます。

そうした期間を経て、支援開始から 1 年後が経過した 2017 年 4 月、パートナー団体を交えてシングルマザー達と自立に向けた協議をしました。そして、支援を終えても彼女達が自分たちでビジネスを運営できると判断し、2018 年 6 月、見事に事業からの正式な自立を果たしました。

2017 年 10 月からは、この第 1 期で得た知見を元に、別のシングルマザー達を対象として新たにルウェロ県の 4 エリアで第 2 期目を開始しました。2018 年度内に研修を終え店舗での販売も始まり、第 1 期のシングルマザー達のように自立に向けて活動に参加しています。

2019 年には、第 3 期の開始も計画しています。

ケニア・ライフプランニング事業

「子どもの夢を応援できるようになりました」

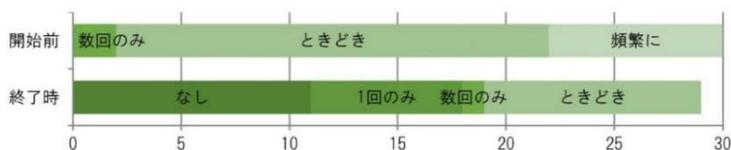


●この事業の背景と目的

ケニア共和国ホマベイ郡は HIV 感染率が 25%と高く、貧困家庭やエイズで親を失くした子ども達も多い地域です。これに伴って学校中退や初等教育修了後に中等教育に進学できないなど、子どもが学校教育から離脱するケースが多くあり、教育機会の逸失はやがて貧困の連鎖につながります。PLAS の現地調査によると、保護者もつ子どもの発達や進路に関する知識情報・家庭での子どもに接する姿勢が、子どもの修学に影響を与えている傾向が見られました。保護者がそうした知見や情報を得る機会は乏しく、子どもも初等教育段階で将来を描く機会は十分にありません。

そこでこのライフプランニング事業を開始しました。現地人カウンセラーを養成し、保護者は彼らとの対話を通して子どもの発達段階や教育の重要性を理解し、自身が何をすべきか計画します。また子どもに対しては、主に初等教育高学年で1対1の対話や集合型ワークショップを通じて、将来を描く機会をつくります。時に地域の大人の協力も得ながら、エイズに影響を受ける子どもと保護者が前向きに人生を描き、将来の計画を立てて行動できるよう活動を展開します。

図1：過去1年に学費を払えない、または遅れることがあったか



●2018年度の活動と成果

2017年度に続いて2018年度には新たな30家庭を迎え、第2期目を実施。全7回のカウンセリングを子どもと保護者に提供しました。

5月には保護者向けの進路情報共有会を、6月には子ども向けに職業人の話を聞くキャリアトークを開催しました。事業実施前後の比較により、保護者の教育態度や行動が改善し、教育費支払い状況が改善されました(図1)。子どもの間でもキャリア・スキルや自己効力感が改善し、将来に希望を持つ子どもが増えました(図2)。

事業に参加したシングルマザーの声 (HIV 陽性・30代)

「子どもの進学をどう計画すればよいかなんてわかりませんでした。私たちのようにお金がない家だと(お金がかかる)子どもの進学は大きな問題なので、それを遅らせるために留年させてしまいました。…子どもが勉強に励んでいるのを知っていたのに。このカウンセリングに参加して、子どもの夢を応援できるようになりました。今は何でもしてやりたいと思えます。未来を信じていることができるからです」

図2：自分のなりたい職業やキャリアについて、コミュニティの他の子どもと同程度の可能性がある、いつも感じていますか



その他の事業

●ケニア・生計向上支援事業（養鶏ビジネス）



2016年から、鶏舎建設や養鶏研修の支援を行っています。ヒナを買って飼育する形で事業を開始。成長後の鶏を販売して利益を出し、その利益を2サイクル目の資金としました。2サイクル目はシングルマザーやパートナー団体との協議の結果、親鳥を買って卵を孵化させ、ヒナを飼育・販売するモデルに変更しました。支援する9家庭すべてで、親鳥の飼育が開始され、ヒナの孵化にも成功しました。現在は各家庭の裁量によって行われており、家庭によっては卵の販売も開始しています。今後はヒナを成長させ販売につなげる予定です。

●ケニア・生計向上支援事業（野菜と樹木の栽培を組み合わせた農業活動）



野菜と樹木を組み合わせた農業活動によって野菜の収穫量や種類を増やし、必要な栄養をまかなうとともに食費をはじめとした基礎支出を減らし、教育支出を向上させる活動です。

2018年度には25家庭を対象に、農業用フェンスの建設や農業技術研修の支援を提供し、各家庭で野菜栽培が始まりました。

「フェンスのおかげで、他の家の家畜が畑の野菜を食べる被害が無くなりました。収穫した野菜の一部は販売しました。カウンセリングで得た学びと合わせて、急な出費があった場合にも備えられるよう、貯蓄することを心がけています」

※公益信託アフリカ支援金様からの助成を受けて実施しています

●【新事業】ウガンダ・HIV陽性者のアドヒアランス向上支援事業



HIV治療薬の普及で、陽性であっても適切な治療を続けることで健康に暮らすことが可能になりました。しかし現地では貧困や差別、治療に対する知識不足により、治療がうまくいかず服薬が続かないケースがあります。そこでHIV陽性者の自分の意思による能動的な治療（「アドヒアランス」と呼ばれます）を促すための活動を2018年4月から開始しました。ヘルスセンターの医療者を対象とした改善活動や、患者さんに対するインタビュー活動を進めています。

※この事業はみなさまからのご寄付と、テルモ生命科学芸術財団様からの助成を受けて実施しています。

●【新事業】ウガンダ・HIV陽性ユースのための職業技術訓練事業



18～25歳のHIV陽性者ユースに対して技術訓練を行い、生計手段を獲得できるよう支援する事業を準備しています。2019年に開始予定です。

※この事業は2018年度に実施したクラウドファンディング「エイズと共に生きる、ウガンダの若者の未来をつくる職業訓練を！」でいただいた皆さまからのご寄付で実施しています。

日本国内の活動

エイズ孤児の課題をつたえ、日本国内の人達にご参加いただく機会をつくることも大切な活動です。2018年度も、PLAS主催のイベントや出張講義・講演などを通して多くの方にエイズ孤児のことを知っていただくとともに、ご寄付やボランティアによって多くの方にご参加いただきました。

寄付でご支援を
いただいた方*

497
名

イベントや講演に
お越しいただいた方

1,125
名

ボランティアとして
ご参加いただいた方

41
名

* 寄付でご支援をいただいた方の人数には、マンスリーサポーターの皆さまや1回のご寄付をいただいた方の他、チャリボン・Brand Pledge・クラウドファンディング等の方法を通してご支援をいただいた方も含まれています。

●講演実績

練馬区立開進第二中学校, 神奈川県立追浜高校,
静岡文化芸術大学, 帝京大学, 東京女子医科大学,
READYFOR 株式会社, NPO 法人 IEO 国際交流団体,
立正佼成会関東教区,
AIDS 文化フォーラム in 京都, AIDS 文化フォーラム in 佐賀
ファンドレイジング日本 2018

PLAS として初めての中学校での授業（練馬区立開進第二中学校）。エイズ孤児問題と日本からできることを一緒に考えました（写真）



●ボランティア参加

ウガンダのシングルマザー達が手作りしたペーパービーズのアクセサリーなどを取り扱う物販事業やチャリティマラソン大会「PARACUP（パラカップ）」・日本最大の国際協力フェスティバル「グローバルフェスタ」等のイベント運営で、のべ41名の方にボランティアとしてご参加いただきました。



大学時代に友人の誘いでボランティアスタッフとなり、卒業までの3年間、イベント企画などに携わりました。就職した通信社の転勤でしばらく離れましたが、2018年春に東京へ異動したのを機に再び活動に参画。報道記者のスキルを活かしてプロボノライターをしています。

PLASは一貫してエイズ孤児の未来を拓くポジティブなメッセージを発信しています。自分自身も前向きになれるし、子どもたちのためにもっと！という気持ちが自然とわき上がります。



（川嶋 大介さん）

日本国内の活動

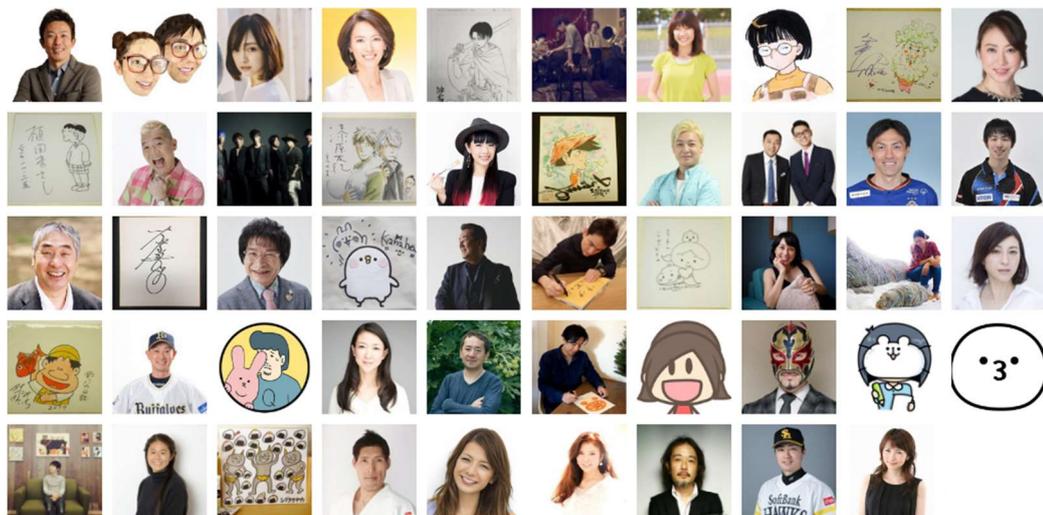
●ご支援・ご協力いただいた法人の皆様

企業をはじめとする法人の皆様にご活動を支えていただきました。ご寄付やご協賛・物品寄贈やイベント会場の使用、ボランティア派遣や各種広報など、さまざまな形で温かいご支援をいただいた法人の皆様をご紹介します。

旭倉庫株式会社、株式会社イオンフォレスト、株式会社イデアインターナショナル、株式会社 GME
株式会社セールスフォース・ドットコム、ニチレイマグネット株式会社、パッケージアート株式会社、
久光製薬株式会社、株式会社フェリシモ、富士ゼロックス端数倶楽部、freeee 株式会社、
マイラン製薬株式会社、ヤフー株式会社、株式会社ラッシュジャパン

●今年度もチャリティーオークションを開催

12月の世界エイズデー・5月の世界エイズ孤児デーの時期に例年開催しているチャリティーオークションでは、2018年度も49名の著名人の皆さまにご協力いただきました。総落札金額は8,491,248円となり、過去最高額となりました。またソーシャルメディア等で発信もいただき、ふだんエイズ孤児の問題に触れることの少ない方々にも広く周知していただけました。



【ご協力いただいた皆さん】

赤星憲広さん、アグリムさん、安達祐実さん、有森裕子さん、諫山創さん、植田まさしさん、ウド鈴木さん、UVERworldさん、漆原友紀さん、絵子猫さん、蛭子能収さん、大塚明夫さん、尾木直樹さん、カナヘイさん、加山雄三さん、北見けんいちさん、岸田護さん、キューライスさん、紺野美沙子さん、佐藤雅晴さん、サタケシュンスケさん、澤穂希さん、シゲタサヤカさん、篠原信一さん、スザンヌさん、SEKAI NO OWARIさん、高橋尚子さん、高橋留美子さん、竹中直人さん、田中雅美さん、ちばてつやさん、つるの剛士さん、ナイツさん、檜崎正剛さん、丹羽孝希さん、野口健さん、のぶみさん、東尾理子さん、一ツ山チエさん、広末涼子さん、福田透さん、古川愛李さん、ポテ豆さん、myさん、mame&coさん、八代亜紀さん、リリー・フランキーさん、和田毅さん、渡辺真理さん

●SVP 東京 (ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京) の投資・協働先に選定されました

社会的な課題の解決に取り組む革新的な事業に対して資金の提供と、パートナーと呼ばれる専門分野をもったメンバーによる経営支援を行っている「SVP 東京」の2018年度投資・協働先に PLAS が選定されました。最大2年間の協働期間にて、現地での活動展開と組織強化のための資金提供を受けるとともに、パートナーの協力を得て「エイズ孤児が未来を切り拓ける世界」の実現に向けた活動の戦略と実行体制を再構築し、ソーシャルインパクトの最大化を目指していきます。

課題の深刻さや緊急性の高いエイズ孤児の問題に取り組まれている PLAS さんを応援できればと思い、協働したいと思いました。PLAS の皆様は温かくて魅力的な方々ばかりで、いつもワクワクしながら協働ができています。今回の協働を通じ PLAS がめざす社会である「エイズ孤児が自ら未来を切り拓いてゆける社会」の実現に向けた動きが少しでも加速することを期待しています！

伊藤 健志さん (SVP パートナー)
IT コンサル、SE として企業の基幹システムや EC サイトを担当する仕事をしています。学生時代に国際協力 NGO に従事したことから NPO/NGO の活動に興味を持ち、今も本業と並行して活動を行っています。



会計報告

●活動計算書 (自 2017年10月1日 ~ 至 2018年9月30日)

科目	金額 (円)	金額(小)計
I 経常収益		27,769,971
受取会費	正会員受取会費 36,000	
受取寄附金	19,605,578	
受取助成金等	受取民間助成金 7,023,496	
事業収益	普及啓発事業収益 1,103,890	
その他収益	受取利息 1,007	
経常収益 計		27,769,971
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費	給料手当 10,489,041	11,706,309
	法定福利費 1,217,268	
(2) その他経費	業務委託費 2,191,419	7,444,370
	謝金 0	
	印刷製本費 17,334	
	会議費 49,387	
	旅費交通費 2,685,718	
	通信運搬費 857,399	
	消耗品費 508,978	
	修繕費 2,500	
	水道光熱費 2,360	
	地代家賃 211,356	
	賃借料 30,888	
	保険料 30,840	
	諸会費 20,000	
	研修費 4,000	
	支払手数料 824,585	
	雑費 7,606	
2. 管理費		
(1) 人件費	給料手当 1,000,000	1,130,740
	法定福利費 116,052	
	福利厚生費 14,688	
(2) その他経費	印刷製本費 170,465	2,365,421
	旅費交通費 124,164	
	通信運搬費 96,327	
	消耗品費 31,100	
	水道光熱費 57,002	
	地代家賃 1,292,709	
	諸会費 94,000	
	支払手数料 469,048	
	雑費 30,606	
経常費用 計		22,646,840
当期正味財産増減額 (経常収益計 - 経常費用計)		5,123,131
前期繰越正味財産額		6,212,525
次期繰越正味財産額		11,335,656

●「受取寄附金」には、マンスリーサポーターや法人寄付のほか、チャリティオークションの収入などが含まれます。

●「事業収益」とは主に、生計向上支援事業によるペーパービーズをはじめとした物品の販売収入、イベントの参加費収入などを指します。

●「事業費」の「事業」にはアフリカでの活動と日本国内での活動の双方が含まれています。

●「業務委託費」は、主に現地パートナーと共に進めるエイズ孤児支援活動に関わる費用です。
例えば、生計向上支援事業における研修費や HIV 陽性のシングルマザーがビジネスを始める初期投資、ライフプランニング支援事業における現地人カウンセラーの育成費や研修開催費はこの部分に該当します。

●「通信運搬費」には、現地パートナー団体との日常のやり取りにかかる国際電話代のほか、PLAS で導入している ICT システム管理費も含まれます。

●「支払手数料」では、現地パートナーに送金する手数料のほか、ご寄付をいただく際の決済にかかる手数料も含まれます。

会計報告

● 経常収益/費用および次期繰越正味財産額の推移 (金額単位:円)

年度	2013	2014	2015	2016	2017	2018
期間-自	2013.3.11	2013.10.1	2014.10.1	2015.10.1	2016.10.1	2017.10.1
期間-至	2013.9.30	2014.9.30	2015.9.30	2016.9.30	2017.9.30	2018.9.30
経常収益 計	18,088,395	18,505,217	18,892,104	14,882,673	17,334,425	27,769,971
経常費用 計	10,355,593	18,429,438	17,617,028	16,475,011	18,607,419	22,646,840
当期正味財産増減額	7,732,802	75,779	1,275,076	-1,592,338	-1,272,994	5,123,131
前期繰越正味財産額	-	7,732,802	7,802,781	9,077,857	7,485,519	6,212,525
次期繰越正味財産額	7,732,802	7,802,781	9,077,857	7,485,519	6,212,525	11,335,656
※賞味財産増減額/経常収益	42.75%	0.41%	6.75%	-10.70%	-7.34%	18.45%
※計上収益前年比	-	102.30%	102.09%	78.78%	116.47%	160.20%
※計上経費前年比	-	177.97%	95.59%	93.52%	112.94%	121.71%

【2018年度採用助成金】

- ・帰国隊員/青年支援プロジェクト (一般社団法人協力隊を育てる会 ※)
- ・フェリシモ地球村の基金 (株式会社フェリシモ)
- ・服部禮次郎アフリカ基金、公益信託アフリカ支援金 (一般社団法人アフリカ協会)
- ・テルモ生命科学芸術財団 医療・健康向上貢献助成 (公益財団法人 テルモ生命科学芸術財団)
- ・JICS NGO 支援事業 一般/基盤強化 (一般財団法人 日本国際協力システム)

※「公益財団法人三菱UFJ 国際財団」の助成を受けて「一般社団法人協力隊を育てる会」が実施する支援事業で、青年海外協力隊員経験者である巣内が対象となりました。

2018年度は前年度と比較して大幅な収入増となりました。助成金の申請/採用本数の増加とチャリティオークションによる収入が予算計画以上であったことに加え、クラウドファンディング「エイズと共に生きる、ウガンダの若者の未来をつくる職業訓練を！」など比較的大型の資金調達施策が全体収益の底上げ要因として挙げられます。また経費は、2018年4月より有給職員1名を新たに採用したことが増加の要因となりました。

一方、マンスリーサポーター・単発寄付・法人寄付などの日常的なファンドレイジング、経費面では導入しているICTシステムのコストパフォーマンス評価や物品販売事業の損益評価などに、改善の余地があります。海外の活動状況の発信体制を充実させ日本国内での関心を高め、財源確保の安定化・資金運用の効率化によってエイズ孤児支援活動により多く資金を充当することを目標とします。そして、ご支援者様のロイヤルティ向上をはかり「PLASに寄付してよかった」と言っていただけよう努めます。(ファンドレイズマネージャー・和泉直孝)

● 貸借対照表 (自 2017年10月1日 ~ 至 2018年9月30日)

I 資産の部	II 負債の部
1.流動資産	1.流動負債
現金預金 12,639,040	未払金 1,022,456
流動資産合計 12,639,040	預り金 766,928
2.固定資産	流動負債合計 1,789,384
投資その他の資産 486,000	2.固定負債
固定資産合計 486,000	固定負債合計 0
資産合計 13,125,040	III 正味財産の部
	前期繰越正味財産 6,212,525
	当期正味財産増減額 5,123,131
	正味財産合計 11,335,656
	負債及び正味財産合計 13,125,040

監査報告書・団体概要

● 監査報告書

特定非営利活動法人エイズ孤児支援 NGO・PLAS
代表理事 門田瑠衣子 様

2018年12月26日
監事 藤本 俊明

私は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人エイズ孤児支援 NGO・PLAS の2018年度（2017年10月1日～2018年9月30日）の業務及び会計の状況について監査を実施いたしました。

監査の方法は、重要な会議の議事録その他の重要資料を閲覧するほか理事から事業の報告を聴取し、また財産の状況については証拠書類の閲覧、照合、質問等を行いました。

監査の結果、法人の業務の執行に関しては法令及び定款に基づき適正に執行され、会計処理は NPO 法人会計基準及び一般に公正妥当と認められる会計の方法によって適正に処理されているものと認められた。

※原本は別途保管しております。

● 団体概要

団体名：特定非営利活動法人 エイズ孤児支援 NGO・PLAS
※英語名 AIDS Orphan Support NGO PLAS

設立：2005年12月9日
※2013年3月11日法人設立
(東京都より特定非営利活動法人として認証を受ける)

職員：代表理事 - 門田瑠衣子 事務局長 - 小島美緒
海外事業マネージャー - 巢内秀太郎
ファンドレイズマネージャー - 和泉直孝
広報・ファンドレイズ担当 - 下久禰愛

理事：門田瑠衣子(代表) / 谷澤明日香(副代表) /
一宮暢彦 / 大島陸 / 加藤琢真 / 功能聡子 /
小島美緒 / 長浜洋二 / 藤本俊明(監事)
※2018年9月30日時点

事務所：東京都台東区

加盟団体：
-国際協力 NGO センター (JANIC)
-NGO と企業の連携推進ネットワーク
-新公益連盟

2018年度受賞実績：



活動地域：

- ウガンダ共和国
- ケニア共和国



現地パートナー団体



- カユンガ (ウガンダ)
Kayunga Friendship and Development Association
生計向上支援 (在来野菜栽培)



- マルチパーパス (ウガンダ)
Nyimbwa Multi-purpose Organization of PLWHAs
生計向上支援 (カフェ)、アドヒアランス向上、
HIV 陽性ユース



- ヴィアジェンコ (ケニア)
Viagenco Community Development & Support Organization
生計向上支援 (野菜と樹木)、ライフプランニング



- ビデップ (ケニア)
Bessa Integrated Development Programme
生計向上支援 (養鶏)、ライフプランニング

Thank you!



<https://www.plas-aids.org/>



<https://www.facebook.com/NGOPLAS/>



@plas_ngo



特定非営利活動法人

エイズ孤児支援 NGO・PLAS

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が共有した
持続可能な開発目標です

1 貧困をなくそう



3 すべての人に健康と福祉を



4 質の高い教育をみんなに



5 ジェンダー平等を実現しよう



17 パートナリシップで目標を達成しよう



〒110-0005 東京都台東区上野 5-3-4 クリエイティブ One 秋葉原ビル 6F

TEL : 03-6803-0791 (土日祝・年末年始を除く 10:00~17:00)

MAIL : info@plas-aids.org